



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和7年2月21日

我孫子市小中一貫教育だより

第368号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-小中一貫教育 共有授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「いのち・こころ・からだの学習」

我孫子第二小学校の3年生が「いのち・こころ・からだ」の学習を行いました。この学習は、Abi-キャリアに位置付けられ、小学校では1年生から6年生が年に1回、学習しています。今回は、「いのちのはじまりと赤ちゃんのたんじょう」について知り、体のつくりや働き、生命誕生までのしくみを学びます。

最初にいのちに関わる体の名称と働きについて学びました。児童は先生の丁寧な説明を聞き、2年生で学習した命のもと「精子」と「卵子」が体のどこにあるのかを理解しました。その後、映像を通して精子が卵子に行きつくまでの過程を学び、「精子が卵子に行き着くまでの距離は、実際の人間に例えると月までの距離がある」と知り、改めて自分たちの存在が奇跡であることを実感しました。次にお腹の中の赤ちゃんの成長についての映像を視聴しました。児童は映像に出てくる赤ちゃんが大きくなっていき、動く様子を見ました。最初は小さかった赤ちゃんのもとが、大切に守られながらだんだん大きくなり、人間の形になっていく過程に驚き、かけがえのない存在であることを実感していました。

「お父さんとお母さんが頑張ってくれたから、自分も頑張ってお成長したい。」と、いのちの大切さを感じることができる温かい授業でした。



Abi-キャリア・Abi-ふるさと「土地のつくりと変化」

高野山小学校6年生の理科「土地のつくりと変化」で、地震の被害への備えに焦点を当てて教材を開発し、災害に対する意識を高めさせることを目的とした授業が展開されました。

初めに、ゲストティーチャーとして東日本大震災当時、高野山小学校に在職していた先生から地震発生時の様子等について話を聞きました。次に、震災当時の我孫子市全体の被害の様子を写真の資料で確認すると、地域によって被害の大きさや種類が異なることに気が付きました。その後、我孫子市の防災に関する情報が掲載されているハザードマップと避難場所一覧から自宅に近い避難場所を確認し、その特徴を調べました。「避難場所にペットは連れていけるのか」「避難場所に行くよりも自宅にいた方がよい場合もある」「指定緊急避難場所と指定避難場所がある」など、想像もしていなかった学びと発見がありました。

授業を通して、日頃の備えの大切さを見直すだけでなく、自分の生活スタイルに合った準備があることや避難後の生活について想像することができました。理科の学習から自分達の地域について理解を深め、学習内容を自分事として捉え、学ぶことができる授業でした。

